



Press Release

公募助成の
助成先が決定！

JR西日本あんしん社会財団

2021年度公募助成（活動及び研究） 助成先（活動団体・研究者）が決定しました ～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

○応募及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2021年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止並びに事故・災害等の風化防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を広く募集しました。甚大な被災となった平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に対する被災地・被災者支援活動についても引き続き、特別枠として募集しました。新型コロナウイルスの影響により活動や研究に様々な制約が見込まれる中、岡山県、広島県に活動拠点を置く団体を含め、活動助成49件、活動助成（特別枠）33件、研究助成41件の計123件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で57件、4,154万円の助成を行うことを決定しました。

| | 応募件数 | 助成決定 | | |
|------------------------|------|------|---------|-----|
| | | 件数 | 金額 | 採択率 |
| 活動助成 | 49件 | 33件 | 1,964万円 | 67% |
| 活動助成（特別枠） ^注 | 33件 | 17件 | 1,066万円 | 52% |
| 研究助成 | 41件 | 7件 | 1,124万円 | 17% |
| 合計 | 123件 | 57件 | 4,154万円 | 46% |

注「活動助成（特別枠）」とは、東日本大震災、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）の被災地・被災者支援に関する活動に対する助成を指します。

※助成期間は、2021年4月1日から2022年3月31日までの1年間です。

※各助成先の助成対象テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

「2021年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

| 団体名 | 活動内容等 | |
|----------------------------|--|---|
| 池田分かち合いの会・ひかり | 池田分かち合いの会・ひかりの活動 | 大切な人を亡くした自死遺族を対象に、当事者同志が向き合い、寄り添い、共有・共感できる場「分かち合い」や講師を招いた遺族の集いを開催する。 |
| いじめから子供を守ろうネットワーク和歌山 | こどもの心を守る「読み語り」の学び会 | いじめに直面する小・中・高校生及びその父母に対し、いじめから子どもを守る読み語り、いじめ防止の授業、フォーラムを開催し、問題解決と教育環境の整備を行う。 |
| イタミライフキーパー | 子育て世代の防災支援活動 | 子育て世代の方々を対象にキッズサバイバー講座、減災ママ講座等の防災・応急手当講習を開催し、防災意識の向上と防災知識を学ぶ場の提供、いつでも学べる環境の整備を行う。 |
| 117KOBEBぼうさいマスター育成会議 | 117KOBEBぼうさいマスタープロジェクト | 災害時にいのちを守るための普及啓発と次世代の「自助・共助」を担う人材育成を目的に、防災に関するワークショップや受講を希望する学校へ出前授業、避難所生活の体験授業を実施する。 |
| 一般社団法人ADI災害研究所 | 発達障がい児や子どもにもわかりやすい防災教育教材の作成 | 地域での防災力や共助力を高めるため、防災教育紙芝居を作成し保育園や幼稚園などの児童施設への配布や防災教育動画を作成し、障がい者関連団体や施設を通じてDVDの配布と団体のSNS等で公開を行う。 |
| 公益財団法人大阪YMCA | 大阪YMCAウォーターセーフティキャンペーン | 小学校を対象とした着衣泳講習会、各家庭へのウォーターセーフティハンドブック配布等による啓発活動や川や海辺での水難事故防止プログラムを実施し、水難事故の防止を図る。 |
| 学生チームあつこズ | 新競技「救命の連鎖」で一次救命処置をもっと身近に! | 一次救命処置に対し心理的なバリアを予防・軽減し、心臓突然死によって奪われる命を減らすことを目的に、楽しみながら学ぶ新競技「救命の連鎖」の普及活動と競技内容のブラッシュアップ、実施サポート体制構築を行う。 |
| かなしみぼすと | グリーンケア | グリーンケアやスピリチュアルケア提供者の共感疲労を予防し、その重要性の社会的認知度を高めることを目的に、マインドフルネスとセルフケアのワークショップ・公開講座をオンライン開催する。 |
| 環境リハビリテーション科学研究会 | 災害時における障がい者支援技術の向上を目指して | 障がい者の情報交換会・勉強会、セミナー等を開催し、災害時における障害特性の知識を習得し、障がい者の避難方法の工夫の検討や障がい者への対応を一般への周知を行う。 |
| 特定非営利活動法人検定協議会 | キッズ防災検定 | 阪神淡路大震災の風化防止を図るとともに、防災意識や知識を高め、災害時に自助・共助、公助の連携によって被害を軽減するため、小学生を対象に防災に関する検定を行う。 |
| 久御山町母子寡婦(さつき)会 | きょうとこどもの城づくり事業(ひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業)SKIP | ひとり親家庭等の子どもの食事・学習・生活習慣等の支援によって子どもの生活や成長を支え、その家庭の子育ておよび保護者自身の生活や就労を下支えするための居場所づくり活動を行う。 |
| 特定非営利活動法人暮らしのこつ研究所 | 障害福祉・精神科医療等の支援関係者を対象としたトラウマについての研修 | 障害福祉・精神科医療等の支援関係者を主な対象に、トラウマに関する研修を実施し、安心・安全に暮らせる社会を目指し、今後地域における関係者の連携がとれる繋がり場の提供をする。 |
| 認定NPO法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター | Tグループ(New Human Interaction Laboratory with T-group & Narrative Approach, 人間関係)研修を体験し自己を知る | 自殺、人間関係等に関するグループワークを中心とした教育訓練プログラムに参加し、新人電話相談ボランティアの育成や団体全体の電話相談ボランティアの能力の進展、内容の充実を図る。 |
| 一般社団法人こどもミュージアムプロジェクト協会 | こどもミュージアムプロジェクト | 交通事故件数の減少のため、こども達の描いた絵やメッセージをトラックや商用車・壁・自動販売機等へラッピングする等の事故防止啓発イベントを開催する。 |
| 特定非営利活動法人こもれび相談室 | 繋がるあんしん見守りプロジェクト | 高齢者や障がい者の安心安全な外出と社会参加を促し、見守るネットワークづくりによって安心安全な暮らしを実現するため、見守り救急タグ配布事業やこもれび通信の配布、スマホ講座・防災クッキング講座を行う。 |
| NPO法人 次世代エネルギー研究所 | ドローンを用いた地域防災訓練の検証 | 地域の防災能力を高めるため、自治体等と連携し、広く地域住民を対象にドローンを使った効果的な避難訓練や緊急物資搬送の防災訓練を行い、ドローンの有効性検証や地域特性に応じたデータを蓄積する。 |
| 周産期グリーンケアはちどりプロジェクト | 妊娠中・産後に赤ちゃんを亡くしたご遺族に関する医療者向けグリーンケア啓発活動 | グリーンケアに関心を持つ医療職者に対し、支援に役立つ知識を提供し充実を図るため、リーフレット作成やピアサポート活動の意義や実態を学ぶ専門職者の研修を開催する。 |
| 認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構 | 「稲むらの火」から学ぶ防災～聴覚障害者の防災意識向上をめざす～ | 聴覚障害者が「人命の尊さ」や「献身的な救護活動の精神」について学ぶことができるツールとして手話動画「稲むらの火」を制作・配布し、防災意識の向上を図り、広範な聴覚障害者および周囲の支援者の防災意識を啓発する。 |
| 特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット | 災害時における鍼灸・マッサージ活動のための支援情報共有WEBツールの作製 | 鍼灸・マッサージチームが避難所等で行う支援活動の情報等を関係者に迅速で正確に提供するため、ITによる連携システムと情報ツールの改善や災害時の感染症対策と鍼灸・マッサージによる支援活動のための研修活動を行う。 |
| 進撃の大谷ガールズ | 女性へのAED使用率向上支援活動 | 女性へのAED使用の抵抗感を軽減し、使用率を上げるため、AEDボックスへの「まもるまる(身体にかぶせるシート)」の設置や一般の方々へ周知を行う。 |
| 特定非営利活動法人全日本企業福祉協会 | 高齢者運転免許返納支援事業 | 健康と生きがいづくりイベントを開催し、高齢者に運転免許を持たなくても行動範囲を広げ、楽しく毎日を通せる生活環境づくりを応援する仕組みと自分に行動変容を起こすための支援活動基盤づくりを行う。 |
| 西大久保団地自主防災会 | 地域自主防災活動 | 入居者の状況や可視化した建物の構造違いを把握し、安否ツール開発、防災マニュアル作成や団地全体で避難行動した際に生じる課題の抽出、整理、対策を行う。 |
| 特定非営利活動法人ノート | たかつき川キッズ調査隊シーズン2 ～自分の命を守るためにできること～ | 「川と水の安全」をテーマに安全な川遊びや救助方法を体験する防災安全プログラムや子どもたちが市民等へ啓発する防災学習プログラムや川キッズ安全教育を実施し、水難防止予防と防災意識の向上を図る。 |
| のまはら | 市民災害支援組織構築事業 | 発災時に即戦力になる人材の育成と組織体制づくり、支援時に必要な物資を確保できるネットワークづくりを目的に、講師を招いた防災講座や備品・設備を使つての実践活動とそのデータ化、被災地でのボランティア活動を行う。 |
| 一般社団法人ハーグ | Huuugなりきりステージ3匹のこぶた～防災教育～ | 幼児期の子どもにも理解が出来る全員参加型の防災ミュージカル(Huuugなりきりステージ)を各園で実施し、未来を担う子どもたちの防災への関心を高め、防災力の向上を図る。 |
| はすの会 東大阪・神戸 | はすの会 東大阪・神戸の活動 | 大切な人を亡くした方対象の茶話会や日帰りバスツアー、グリーンケアを提供する医療職や看護学生の研修会を実施し、遺族の多様なニーズに応えるグリーンケア活動、ファンリテーター養成を行う。 |

| 団体名 | 活動内容等 | |
|-------------------------|--|---|
| 特定非営利活動法人働く者のメンタルヘルス相談室 | 家具固定と震災後のトイレ問題、防災食紹介を重点にした防災普及と、防災を支える新たなコミュニティの形成 | 防災対策で重要な家具固定とトイレ対策をテーマとした防災パネル展を開催するとともに、防災食提供を通じて地域の新たなコミュニティ形成と既存自治会活動との連携を図る。 |
| 兵庫・生と死を考える会 | 生と死を考える会全国協議会全国大会 | 全国で活動するメンバーが一同に会する協議会や基調講演・分科会及び講演会を開催し、研修及び活動の意義を再認識するとともに、コロナ禍において今後必要とされるグリーフケアを考察する。 |
| ピリブメントケアチーム「ピリブ」 | ピリブメントケアチーム「ピリブ」の活動 | 子どもを亡くした家族、特にケアが必要な急性期の遺族に対し、訪問活動やカフェ形式のわちあいの場の開催により、心の支えとなる支援を行う。 |
| 一般社団法人フリンジシアターアソシエーション | 防災力向上！地域防災演劇ワークショップ事業 | 子どもの防災に対する自助・共助の知識習得や行動力の向上、安全で安心な地域を形成することを目的に、防災演劇ワークショップや防災演劇体験会、発表会を開催する。 |
| 特定非営利活動法人ママふあん関西 | 性・生教育プロジェクト | 自分と他人の「性・生」を大切にできる親子を増やし、すべての「命」が祝福されて生まれてくる社会環境をつくることを目的に、「性・生教育」冊子の制作や講座を開催する。 |
| 特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ | ポリクッキング | 地域での防災講座やイベントでの防災啓発を行い、ポリクッキングの普及を通じ、母親同士のつながり、家庭や地域への積極的協力やコミュニティを発展させ、災害時を含め安心して子どもの命を守れるコミュニティ創りを行う。 |
| 特定非営利活動法人 われらはふるさと医療応援団 | 救急時の感染防御に関する実践モデルの構築と普及 | 薬局や医療、介護関係者等に対し、ビデオを用いた現場の資源や環境に適した感染防御の研修を行い、救急対応時の感染防御や現場の実態からみた対応モデルを構築する。 |
| 活動助成小計 33件 | | |

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順)

| 団体名 | 活動内容等 | |
|----------------------------|---|--|
| あらいぐま大阪 | 西日本豪雨災害で被災した写真をお預かりし泥などを洗浄・乾燥・拭き上げ等行いお返しする活動 | 災害で被災された方々の人生の記録である写真を預かり、思い出を救い、前を向いていただく力となることを目的に、写真洗浄活動の他、イベント、SNSによる情報発信を行う。 |
| あらいぐま岡山※ | 真備町写真洗浄@あらいぐま岡山 | 被災した地域で活動することによる地域活動や写真洗浄による被災された方の心のケアを図ることを目的に、ローラー作戦(お宅訪問)によるニーズの再調査や写真洗浄・写真データ化、地域との交流を図る。 |
| 大阪大学災害ボランティアサークルすずらん | のだ暮らし応援交流ツアー・夏(被災地での地域活性化ツアー) | 高台移転を余儀なくされた岩手県の被災地のコミュニティ形成支援と物販会や民泊体験等の事業を通じた復興支援を行うとともに、関西での東日本大震災の風化防止を図る。 |
| 岡田地区まちづくり推進協議会※ | 真備町岡田地区の復興・防災まちづくり事業 | 被災した地区で以前から実施していた夏祭り、防災研修会等の各種イベントを通じ、災害により大きな変化を受けた地域コミュニティの再構築を図り、より住民のつながりの強い地域づくりを目指す。 |
| 一般社団法人お互いさままびらボ※ | 災害公営住宅からダイバーシティを目指すまちづくり計画イベント事業 | 災害公営住宅で歓迎イベントを開催し、入居者とまちの住民との交流を図り、お互いに支え合えるまちづくりのつながり作りを目的とし、音楽コンサートや交流イベントを開催する。 |
| 特定非営利活動法人オリーブの家※ | 被災者の心に寄り添うための心理理解・ボランティア継続のためのセミナー | 西日本豪雨の被災者等を対象に、自分を守るネットワークづくりや自分や他者にも寄り添える人材育成を目的とした、ネットワーク作りのワークショップや被災者心理を学ぶセミナーを開催する。 |
| NPO法人語り部おもちゃ箱音楽隊 | 東北被災地ふれあい語り部コンサート | 東日本と阪神・淡路、二つの大震災を経験した団体代表らによる語り部コンサートを東北被災地で開催し、被災地の状況を伝えるほか、身近な防災知識の紹介なども行う。 |
| 呉妹地区まちづくり推進協議会※ | 真備町呉妹地区復興に向けた住民きずな事業 | 被災した地区で以前から実施していた吉備真備弾琴祭等の各種イベントで住民同士が触れ合い、地区における絆をさらに強くし、元気にすると同時に今後の災害に備え、地区民がお互いに支えあえる環境を作る。 |
| 一般社団法人 こどもスマイルミーティング※ | こどもスマイルミーティング | 西日本豪雨の被災地の親子に楽しい時間を提供するとともに保育士ボランティアの養成を目的に、親子コンサートの開催や保育園、幼稚園等で保育士・親子防災講座を実施する。 |
| 特定非営利活動法人こもれびの里※ | 平成30年西日本豪雨災害で水害被害に耐えたビニールハウスの活用 | 西日本豪雨に耐えたビニールハウスでのイチゴ栽培や里山の竹を伐採しバイオ炭を作ることを通じ、災害を経験した子供たちの心のケアや地域の復興を図る。 |
| 災害で生活が変わった子供を支援する会※ | 子どもたち集まれ！豪雨に負けない心を育てる！ | 西日本豪雨の被災地域の子供の心を支援し、イベントを通じ住民の結束力を高め、町を作る心を育てることを目的に、サバイバルキャンプやシェルター作り等を取り入れたイベントを開催する。 |
| 下原・砂古自主防災組織(下原復興委員会)※ | 平成30年7月豪雨(西日本豪雨)を乗り越えた「地域の絆」を後世に繋ぐ～災害復興記録誌を通じた地域の防災力を高める創縁活動～ | 被災状況や避難時の様子など被災者の体験(記憶)を後世に残すための記録誌の作成や地域の居場所づくりと避難訓練、要配慮者個別避難計画の策定等を実施する。 |
| チームおせっかい滋賀 | 東日本大震災の影響で関西に避難する被災者支援活動 | 被災者の避難生活の孤独化防止、悩みの傾聴と不安要因の解消を図るため、訪問相談活動や農園交流会と農園野菜活用免疫力づくり料理教室交流会の開催を行う。 |
| 被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」 | 倉敷市真備町の緊急救援活動及び、避難所・仮設への慰問ボランティアツアー その3 | 被災した地域支援のほか、ボランティア活動の意義や、被災地の現状等を広く知ってもらうこと、災害の風化防止を目的に、同地域の仮設住宅、児童館等での復興支援ボランティア活動やそれらの情報発信を行う。 |
| 門戸倶楽部 | 東日本大震災復興支援 三陸「笑い」の復興教室 | 被災した三陸地方の子どもたちに活気を与え、またSDGs・環境問題についても考える機会を与えるため、社会のしくみや科学技術、環境について理解を深めてもらう「笑い」の復興教室を開催する。 |
| 箭田地区まちづくり推進協議会※ | 真備町箭田地区復興のための住民ふれあい事業 | 被災した地区で以前から実施していた竹&ふれあいフェスタ等の各種イベントを通じ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。 |
| 若者活動サポートセンターあおぞら※ | いのちをつなぐお茶会サロン活動 | 広島地区における平成30年の災害で傷ついた被災者・避難者の心に寄り添い、助け合い、次の災害に備えることを目的に、お茶会サロン活動や被災者とともに作る「いのちをつなぐカードゲーム」づくりを行う。 |
| 活動助成(特別枠)小計 17件 | ※印は近畿2府4県以外に拠点がある団体 | |

【研究助成】

(研究者名50音順)

| 研究者名 | 研究名称 | 主な研究内容 |
|--|--|--|
| 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 特任助教 片山祐介 | 救急小児アプリの普及並びに蓄積データの統計学的解析 | 小児救急患者の実態把握及び救急医療用アプリケーションの実現性の検証のため、受診可能な医療機関リストの作成及びアプリケーションを開発・リリースし、その利用履歴を解析する。 |
| 京都橋大学 専任講師 北小屋裕 | 鉄道交通機関での応急救護体制と応急救護資器材の標準化に関する研究 | 鉄道交通機関の職員が遭遇する乗客の標準的な応急救護(ファーストエイド)について明らかにし、研修プログラム、遠隔研修カリキュラムの開発や使用資器材の選定と研修・教育方法の検討を行う。 |
| 大阪医科大学医学教育センター 副センター長 駒澤伸泰 | 人工知能(AI)シミュレーションによる災害教育システムの構築～Post-コロナ時代における革新的災害教育開発を目指して～ | AIを活用した世界的災害教育の情報収集を行い、「AIシミュレーションによる災害教育システム」の開発と災害時部署間連携型網羅的災害訓練における課題の明確化と解決策の提唱を行う。 |
| 国際ファッション専門職大学 教授 田中雅一 | メモリアル・ファッションの文化人類学的研究――衣服に見る記憶、慰霊、癒し | 身に付ける衣服が人々に与える癒しの作用や癒しという観点から生と死を結びつけ、死者の記憶装置としての衣服をめぐる遺族たちの実践を考察し、ファッションとグリーフケアの関連性を考察する。 |
| 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授 西岡伸紀 | 教職員による学校安全点検のプロセスを児童生徒が効果的に学習するためのプログラムの開発 | 小・中学生に対する質問紙調査によりプログラム開発の基礎的な量的情報を幅広く収集・分析した後、教員対象調査結果と併せて学校安全点検のプログラムを開発する。 |
| 花園大学 教授 橋本和明 | ネグレクト死亡事例における虐待親の認知要因についての研究 | 児童を死に至らしめる深刻なネグレクト死亡事例における親の認知要因の解明と親の認知の変容を明らかにする適切なアセスメントの探究を行う。 |
| 大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 相談支援室 助教 安永正則 | COVID-19下の大学におけるハイブリッド型授業 ―障害学生への合理的配慮に焦点を当てて― | ハイブリッド型授業に対する課題を確認するために、高等教育機関の障害学生支への調査、検討を行い、支援ニーズを踏まえた授業担当教員への具体的な対応方法について提唱する。 |
| 研究助成小計 7件 | | |
| <総合計> 57件 | | |

「2021年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2021年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「2021年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケア、並びに事故、災害等の風化防止に関する活動や研究」として募集いたしました。事故については、定義づけを行い、事故防止や安全構築に向けた草の根の取組みを幅広く募ることとしました。

「活動助成（特別枠）」においては、甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」（以下（ ）内略）に対する被災者支援活動につき、引き続き広島県及び岡山県に活動拠点を置く団体も対象とし、特別枠として募集するとともに、東日本大震災に対する支援活動についても同枠として募集いたしました。

募集にあたり、対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO支援機関等へのチラシ郵送等を行いました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から訪問広報等を行うことができませんでしたが、各所でチラシ等の掲出や配布、ホームページ等への情報掲出に積極的にご協力をいただいた結果、例年に比べ余り遜色のない認知が得られたのではないかと感じております。助成に関する個別相談会（大阪、広島及び岡山地区で開催）にも多くの方にお越しいただきました。

一方で、コロナ禍はこれまで当たり前のようになっていた活動や研究に大きな制約を与えることとなり、代替方法等工夫いただいている団体や研究者もありますが、応募数に少なからぬ影響があったと考えております。コロナ禍に関しては、前年度の公募助成について、それぞれの計画策定時点からは想定しえない事態になったことに鑑み、半年程度の助成期間延長の特例措置を講じており、応募数減にも作用したものと考えております。

その結果、活動助成、活動助成（特別枠）、研究助成それぞれで前年より減少し、合計123件（前年150件）の応募をいただきました。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1次審査と2次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点に加え、新型コロナウイルスの影響を踏まえた計画の実行可能性も意識し、厳正な審査により採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

今回の募集でも、本助成の趣旨に合致する多数の活動及び研究の応募がありました。これは、地道な広報活動、各機関による告知協力の効果に加え、既助成団体により新たな団体等への紹介いただくことによる認知の広がりによるものも大きいと考えており、本助成の地域社会への浸透を実感しています。

最終的には、当初予定していた助成総額 4,000 万円を上回る、活動助成 33 件、1,964 万円（前年 34 件、2,104 万円）、活動助成（特別枠）17 件、1,066 万円（前年 26 件、1,615 万円）、研究助成 7 件、1,124 万円（前年 8 件、1,370 万円）、合計 57 件、4,154 万円（前年 68 件、5,089 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が 67%（前年 58%）、活動助成（特別枠）が 52%（前年 68%）、研究助成が 17%（前年 15%）となり、全体では 46%（前年 45%）となりました。

(1) 活動助成

異常気象はじめとした自然災害の備えとして、防災・減災に関する応募が多く、次いで心のケア、救命、事故、安全等に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、それらを反映した結果となりました。救命分野では新型コロナウイルスに関する取り組み、安全等では自動車事故の防止に資する取り組み等についても採択いたしました。

(2) 活動助成（特別枠）

平成 30 年 7 月豪雨の被災者・被災地支援活動、特に岡山県倉敷市における支援活動に引き続き多くの応募がありました。東日本大震災の被災地・被災者支援に関する活動については、発災から 10 年を迎える年として、一定の応募がありました。被災者の心のケア、コミュニティの復興に関する応募が多く、それらを中心に採択しました。なお、2 府 4 県以外に拠点がある団体として岡山県から 8 団体、広島県から 3 団体を採択しました。

(3) 研究助成

防災・減災が最も多いものの、心のケア、身体のケア、救命、安全等 バランスよく応募が寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に該当するものとし、うち「計画の遂行能力」に関しては、得られる成果の具体性が高いかどうかも含め慎重に審査を行い採択いたしました。新型コロナウイルスに関連付けた研究テーマも目立ちました。

4. 総評

今回も熱意あふれる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

新型コロナウイルスによりあらゆる社会活動が制約を受け、日常生活すら非常に厳しい中であって、当初は相当な応募の減少を覚悟いたしましたが、そのような状況に屈せず意欲的に応募いただきました全ての皆様に本当に頭が下がる思いです。本事業は皆様のような志をもっている方によって支えられていることを再認識するとともに、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

さて、全体を通じ、質の高い応募がある一方で、申請上の記載不備等があるために、内容自体はよくても、残念ながら不採択とせざるを得ないケースも少なくありませんでした。不備に至った主な事由を特定して示した通知書を確認いただくとともに、是非次回の提出の際はチェックリストを活用し、採択を目指してください。

活動助成及び活動助成（特別枠）については、コロナ禍で様々な制約が想定される中、実施可能な活動を工夫していただいている計画が多くみられました。新型コロナウイルスは今後も意識せざるをえないと思います。いかに活動の趣旨を達成する計画とするかにつき引き続き工夫をお願いします。

研究助成については、前回に引き続き、テーマのみならず計画及び収支計画も含め、質的な高さを重視し審査いたしました。倫理的配慮については、その必要性について改めての説明を要しないと思いますが、申請書に対応の方針等の記載がなく不採択となった応募が少なくありませんでした。是非漏れのないように記載をお願いします。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様のご活躍を心よりお祈りしております。